# かまくらの不思議を歩こう

## 葉山・長柄のパワー地図　大貫昭彦

45 最終回

＊衣笠城の前線基地

「長柄」鎌倉・逗子・葉山のパワースポットめぐりの最終回は、葉山町長柄地区です。古代、中世は三浦武士の長江義景が領した地域で、域内には、長江氏のゆかりの館跡や寺社があります。今回は禅寺の福厳寺と御霊神社を巡りました。

＊福厳寺のパワースポット

福厳寺は鐘楼門の見事なお寺です。長柄義景の館があった殿ヶ谷の入口に建っています。パワースポットは、本堂の扉の前の3カ所と正面の階段から5mほど離れた所の計4カ所です。パワーが最も強いのは、本堂前の中央のスポットで、大根会の皆さんからは温かい、前に強く引っ張られるなどの声が上がりました。大根師は殿ヶ谷の館跡から来るパワーではないかと推測されました。ただ、現在は私有地のため館跡へ行くことはできません。

＊御霊神社の晴れやかパワー

御霊神社は、福厳寺の向かいの高台にあります。義景が祖父の鎌倉景政を祭った社です。パワースポットは、社殿の裏山にある石造りの祠の周辺に集中していました。パワーみなさん、いい表情を見せて帰途につきました。

＊最終回に際して

長い間、本シリーズにお付き合いいただきありがとうございました。理解できない内容もあったかと思いますが、最後に大根会の皆さんから学んだことを、私なりに解釈してまとめとしてご理解ください。

＊大根師の理論1

鋭いアースパワー・フィーラの肩書を持つ大根弘行師によれば、パワースポットは、ぼんやりした存在ではなく、宇宙のエネルギーが地球の一点を貫く、極めて緻密なものだということです。数センチずれるとエネルギーは弱まり、あるいは消滅する。またスポットは命に優しい条件を備えている場合が多いので、人の拠り所になり、やがてその周りに村ができる。歴史ある神社などにスポットが多い道理です。

＊大根師の理論2

マイナスパワーも存在する一方、たまにマイナススポットも存在するようです。多くは長く忘れられ、人も通わぬ所にあるようです。大根師は時折、「このパワーは眠っている」といわれます。しかし、初めは感じない場所でもやがて見つかる。パワーは交信できる人に会うと目覚めるものらしい。また場を汚すような事件があった場所もよくない。スポットを不浄にするとパワーはマイナスに働く。プラスパワーもマイナスに転じることがあるそうです。ご用心を！

＊大根師の理論3

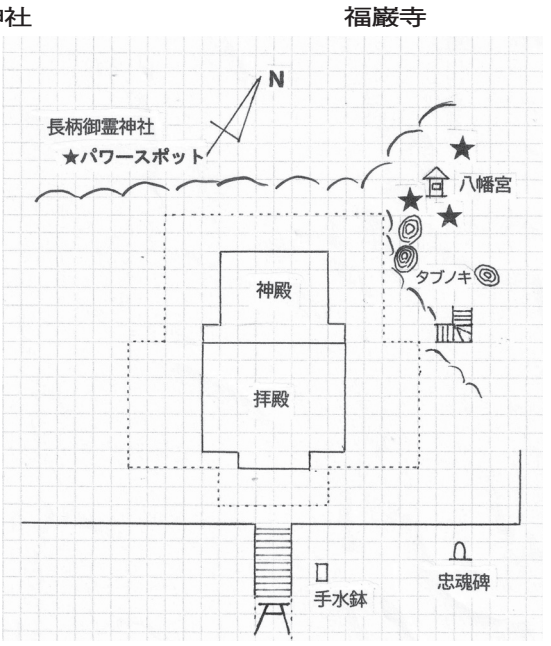
パワースポットは崇る！大根師の説にはリアリストには理解できないところがあります。ただ、パワーのある所は確かにいい環境です。優しい木陰だったり、いい風が吹いていたり、気分も温もる陽だまりだったり―これは筆者の感想です。肩こりが治った、足腰が軽くなった、目がすっきりした、気分も軽くなった―大根会の皆さんからいつも聞く感想です。その分、皆さんの祈りは丁寧です。「だから小さな社も、粗末にするといいことはない。石塔やそのかけらも、やたらに動かしていけない。スポットはいつもきれいにすること。これを守ればいいことがやってきます」これが大根師の口癖です。

ご愛読に重ねてお礼申し上げます。（完）

長柄の御霊神社

福厳寺

石造りの祠



御霊神社のパワースポット地図

# 農作業や〝まちのコイン〟で市民交流

## 鎌倉のアルペなんみんセンター

内戦などで祖国を逃れて日本にたどり着き、難民申請中の外国人たちが身を寄せる国内最大のシェルターが、鎌倉市十二所にある。イエズス会が修道院の土地と建物を提供し、昨年4月に誕生した「アルペなんみんセンター」だ。NPO法人アルペなんみんセンターが全国からの寄付をもとに運営し、30の個室を備える。今年11月半ばにはウガンダ、コンゴ、ミャンマー、インドネシア、スリランカなどからの9人が生活し、彼らとの交流をきっかけに難民支援に関心を持つ市民が増えている。

有川さんとアルペなんみんセンター地域住民と農作業

難民とは、内戦や紛争、政治的意見の対立などで、自国にいると命の危険にさらされたり、迫害を受けたりする恐れがあるため他国に逃れた人々を指す。避難先で暮らすには、各々の国で難民認定を受ける必要があり、欧米諸国の認定率は20～50%だが、日本の認定率は1%程度と極端に低い。

祖国には戻れず、助けを求めた日本では難民と認められない。そのような外国人の中には在留資格を失って入管施設に収容される人も多い。日本の支援者らとつながって「仮放免」を受け、入管施設から出られた人でも難民認定を受けるまでは就労を禁じられる。認定されぬまま5年、10年と月日が経ち、路上生活に追い込まれる人も。「認定率の異様な低さをはじめ難民への冷たさは日本人が難民を知らな過ぎることに起因する」と同センター事務局長・有川憲治さんは指摘する。

有川さんは、大学在学中の1980年代にインドシナ難民支援に関わり、以後も東京のカトリック施設などで働きながら難民支援を続けてきた。有川さんらの努力で多くの難民が救われたが難民に対する日本社会の無関心や冷たさは変わらなかった。「知らないから怖がる。知らないから避けたがる。難民の人たちともっと交流できる場を作らなければ」。有川さんの長年の思いが形になったのが同センターだった。開設以来1年半ずっと泊まり込んで支援活動をしている。

同センターで暮らす外国人の中には、医師や教員、政府要人警護などの経験者もいる。その境遇ゆえに顔や名前は明かせないが、様々な技能や趣味、特技を持つ。そこで同センターは、IT企業カヤックと鎌倉市が取り組む地域通貨クルッポ（まちのコイン）の加盟スポットに登録。300クルッポの利用で、スリランカ人のリヴィさんから本場の紅茶の入れ方を学べる講座などを開講し、人気を集めている。毎週土曜はセンターの敷地内に作った畑で、入所者と地域住民が一緒に農作業をしている。11月半ばにはサトイモを沢山収穫した。難民を考えるセミナーの定期開催や市内の小中学校との連携強化なども計画している。

有川さんは「ここは単なる避難場所ではなく、苦境を乗り越えてきた難民たちが日本で生きていくための意欲や力を取り戻す場にしたい。地域の方々の協力で、木工作業の見習いや介護研修の受講を始めた人もいる。地域とのつながりを更に強めて、鎌倉から日本を変えていきたい」と話す。

同センターへの寄付は、同センターのホームページからクレジットカードで行える。

## 自分探しのセミナー
### 星山麻木さんが鎌倉のカフェで

鎌倉市小町のMUJI鎌倉で11月6日から21日まで「いろんなカタチ展」が開かれ、14日、星山麻木さんのワークショップとトークイベントが開催された＝写真。

同店はホテルメトロポリタン鎌倉1階の無印良品の中のカフェで、トークイベントは初めて。店長の長尾亮さんが、福祉などの発信もしていきたいと子ども・子育てに関する活動を行っている「いろんなカタチ鎌倉」（小宅まどか代表）との間で企画がまとまった。

「じぶんを知る、見つめる。」をテーマに、困ったときに見方を変えてみることで楽になる方法を伝授。講師の星山さんは明星大学教育学部教授で、市の「かまくらっ子発達支援サポーター養成講座」なども担当している。この日の講座では、個性を赤青緑黄オレンジなどの色で表現し、色鉛筆で自分や家族が何色か塗ってみたり、隣りに座った初対面の相手と意見交換したりした。

星山さんは「自分を知ることが大事。自分の事がわかると他人のことがわかる」と話し、「みんなと同じでなくていい」と語った。

鎌倉といえば・・・
旭サブレー
豊島屋
http://www.hato.co.jp

お香 香炉 香道具 匂い袋 高級線香 念珠 他
鎌倉に蘇える伝統の香り
香司 鬼頭天薫堂 鎌倉
鎌倉市雪の下1-7-5 小町通り八幡宮寄り
TEL. 0467-22-1081（代）
http://www.tenkundo.co.jp/

2022年版
阿見みどり
万葉 野の花®
カレンダー3種
銀の鈴社
https://www.ginsuzu.com